

山口県感染症発生週報

(第40週:平成23年10月3日～10月9日)

1 全数把握感染症

【2類感染症】

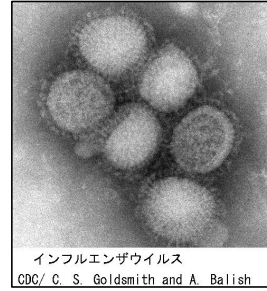
◆結核: 第38週追加:1例(長門)。第39週追加:2例(岩国、宇部)。

【3類感染症】

◆腸管出血性大腸菌感染症: 第40週:2例(宇部 O111:VT1VT2、宇部 O157:VT1VT2)。

【4類感染症】

◆日本脳炎: 第40週:1例(宇部 発病は7月頃で、感染推定地域は長門です)。



インフルエンザウイルス
CDC/ C. S. Goldsmith and A. Balish

2 定点把握感染症(5類感染症)

(1)特記事項

◆インフルエンザ: 患者報告数は先週より減少しましたが、特に周南からの報告が目立ちます。また、少数ですが、下関、柳井、山口からの報告もありました。迅速検査では、A型陽性24例、臨床診断3例でした。

◆RSウイルス感染症: 増加傾向が続いていましたが、今週はやや報告数が減少しました。依然として過去4年間の同時期と比較して多い状態ですので注意が必要です。特に宇部からの報告が目立ちます。

◆咽頭結膜熱: 過去4年間の同時期と比較するとやや多い状況です。特に長門では多い状況です。

【警報レベル=長門】※

◆A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 例年と同程度の報告数ですが、萩では多い状況です。

【警報レベル=萩】※

◆手足口病: 第27週をピークに減少傾向にありますが、多くの地域では警報レベルが続いています。また長門では再び急増していますので、注意が必要です。【警報レベル=長門、萩、柳井、山口、防府、周南】※

◆伝染性紅斑: 過去4年間の同時期と比較すると、今年は4年ぶりに高い水準で推移しています。

【警報レベル=長門】※

◆流行性耳下腺炎: 下関では過去4年間の同時期と比較してやや多い状況が続いています。

【注意報レベル=下関】※

◆マイコプラズマ肺炎: 報告数が多い状況です。全国的にも例年と比較してかなり多い状況です。

※警報レベル・注意報レベルの基準値詳細についてはHPをご覧ください。
<http://kanpoken.pref.yamaguchi.lg.jp/jyoho/report2011/keihotyuuho.php>

(2)週別発生状況

疾患名	38週	39週	40週	疾患名	38週	39週	40週
インフルエンザ	0	46	27	百日咳	0	0	1
RSウイルス感染症	50	59	41	ヘルパンギーナ	40	31	17
咽頭結膜熱	13	13	16	流行性耳下腺炎	22	51	43
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52	63	61	急性出血性結膜炎	0	0	0
感染性胃腸炎	129	195	226	流行性角結膜炎	9	3	1
水痘	25	18	34	クラミジア肺炎	0	0	0
手足口病	138	127	111	細菌性髄膜炎	0	0	0
伝染性紅斑	12	16	15	マイコプラズマ肺炎	2	13	13
突発性発しん	29	26	30	無菌性髄膜炎	0	0	0

(3)地域別発生状況

疾患名	下関	岩国	柳井	周南	防府	山口	宇部	長門	萩	全体
インフルエンザ	1	0	3	22	0	1	0	0	0	27
RSウイルス感染症	2	1	2	9	3	1	20	3	0	41
咽頭結膜熱	1	0	0	1	1	3	0	10	0	16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	5	1	8	1	12	2	5	21	61
感染性胃腸炎	35	8	0	84	6	21	54	11	7	226
水痘	17	1	3	2	1	3	4	2	1	34
手足口病	12	4	15	20	8	17	3	23	9	111
伝染性紅斑	5	3	0	2	0	1	0	4	0	15
突発性発しん	12	2	0	4	0	7	3	2	0	30
百日咳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ヘルパンギーナ	3	0	1	3	0	7	3	0	0	17
流行性耳下腺炎	30	2	5	1	0	1	0	4	0	43
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	5	1	0	6	0	1	0	0	0	13
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※平成23年11月8日に追加報告がありましたので、データの一部を修正しました。

山口県感染症情報センター(山口県環境保健センター内)

電話:083-922-7630 FAX:083-922-7632

<http://kanpoken.pref.yamaguchi.lg.jp/>